

**1. 実況上の着目点**

- ① 500hPa 5280m以下で-33℃以下の寒気を伴う中国東北区の寒冷渦が東進。寒冷渦周辺の5400m付近の正渦度極大域に対応した朝鮮半島付近の低気圧が東北東進。
- ② 500hPa 5760m付近の正渦度極大域が華南付近を東進。
- ③ 関東の東の海上の低気圧が東北東進。

**2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点**

- ① 1項②の正渦度極大域に対応した前線を伴う低気圧が6日朝までに東シナ海で発生し、前線

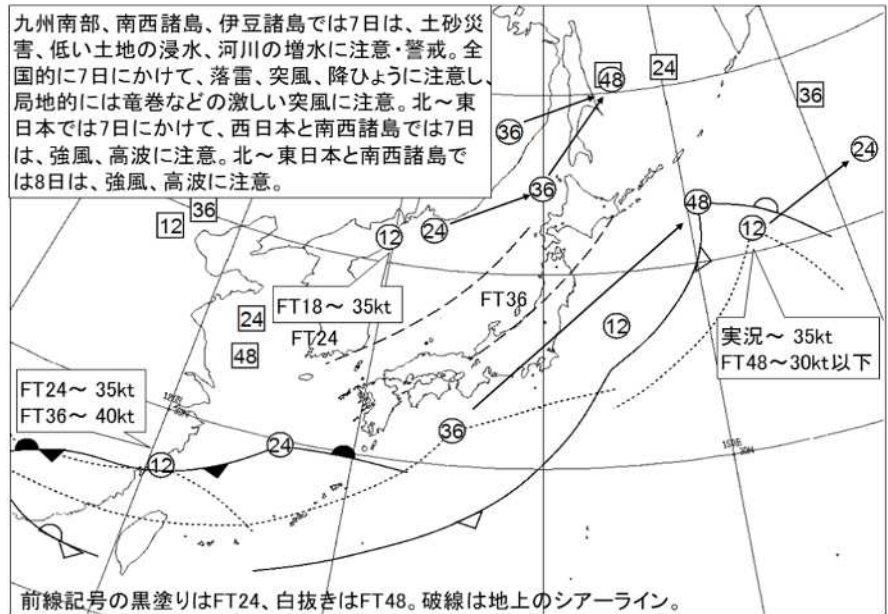
は南西諸島付近から華南までのびる。7日夜にかけて、低気圧は本州の南岸付近を通り千島の東へ進み、前線は南西諸島付近と本州南岸付近を通り、日本の東から沖縄の南へのびる。1項①の朝鮮半島付近の低気圧は、次第に1項①の中国東北区の寒冷渦に対応しながら発達し、7日夜にかけて北海道付近を通過しオホーツク海へ進む。寒冷渦の東進に伴い、500hPa 5220～5520mの寒気を伴う深いトラフが7日夜にかけて本州付近へ進み、北日本では500hPa -30℃以下、東～西日本では-18℃以下の寒気が広がる。低気圧付近からのびるシアーラインが6日夜から7日朝にかけて本州付近を東進し、その後、不明瞭化する。低気圧、前線、シアーラインに向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。これらの低気圧と大陸から7日夜にかけて黄海へ移動する高気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、しける所がある。九州南部、南西諸島、伊豆諸島では7日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。全国的に7日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北～東日本では7日にかけて、西日本と南西諸島では7日は、強風、高波に注意。

② 8日は、西日本付近から日本の東へ高気圧が移動し、日本付近は広く高気圧に覆われる。2項①のオホーツク海へ進む低気圧は北上し、カムチャツカ半島付近へ進む。日本付近の高気圧とオホーツク海の低気圧との間で気圧の傾きが急となる。南西諸島付近では高気圧縁辺の吹送距離、吹続時間の長い北東寄りの風が吹く。このため、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～東日本と南西諸島では8日は、強風、高波に注意。日中の昇温や降水の影響で雪解けの進む所がある。北～東日本の多雪地では8日にかけて、なだれや融雪に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の朝鮮半島付近の低気圧、本州の南岸付近を進む低気圧の位置や発達の予想には不確実性がある。

**4. 防災関連事項 [量的予報等]** ① 雨量(06時からの24時間)：九州南部・奄美120mm。② 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、北海道・東北・関東・北陸・東海・近畿・九州南部・奄美・沖縄3m。

**5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図